

平成 19 年度宮前区区民会議 地域防災部会（第 4 回）摘録

日 時 平成 19 年 10 月 15 日（月）18 時 05 分～20 時 00 分

場 所 宮前区役所 4 階第 4 会議室

出席者 渡辺部会長、小林委員長、永野委員、長谷川委員、福本委員、松本委員、

事務局 田邊企画調整担当主幹、中山企画調整担当主査、東企画調整担当主査、成沢職員

川本総務企画課主査、間島地域振興課主査

1. 開会・事務連絡（事務局）

事務局から事務連絡

- ・ 情報公開について
- ・ 行政側として総務企画課、地域振興課が出席

部会長あいさつ

- ・ 先日開催された「防災フェア」は企画が大変盛りだくさんで参考になった。
- ・ 防災訓練も何かお楽しみを交えた形で開催できれば、若い人の参加も増えるのではないかと。
- ・ 11 月 16 日開催予定の第 3 回区民会議にむけて、本日の会議で部会提案の骨格をまとめたい。

宮前区版「みんなでやろう防災対策」の作成

永野委員 各家庭のトイレに貼れる様なシールの形は良いなと思った。参考資料でまとめられているのは、自助の部分だけだ。発生直後はまず家族の安全確認や救出になるが、その後隣近所への声かけや救出につながるような共助についての記述も入れたい。死者の 8 割は発生後 15 分以内であり、早い段階での救助活動が非常に重要であることをみんなに知ってもらいたい。

渡辺部会長 ごみカレンダーのように簡単に家のどこかに掲示してもらえそうな形ができると良い。

事務局 具体的な形態や掲載内容までは、区民会議だけでは検討できないのではないかと。専門家も交え、時間と手間をかけながら、区民と一緒に協働で練り上げていく方式が良いだろう。

全戸配布の「備える。かわさき」に基本的な事は掲載されている。これを活用しながら、漏れている部分があればカバーし、チェックシートとなるような、インパクトのある物ができると良い。

事務局 総務局危機管理室に問い合わせたところ、すでに災害時の連絡先カードなどが作成され、配布されていることがわかった。既存の試みをきちんと把握、考慮していく必要がある。

永野委員 既存の物が、あまり知られていない、うまく活用されていない現実もある。市民に伝える方法、一目でわかるような物を考えなければ意味が無い。

福本委員 盛んに PR しているが、資料が多すぎてわかりにくい面があると思う。

渡辺部会長 資料の渡しっぱなしでは駄目。やはり講座など開いて活用する。知ってもらう。

事務局 様々な資料が既に作られている中で、「あれもこれも」にならないような議論をお願いしたい。

たとえば、最低でも載せるべき内容は何なのか、まずアピールすべき内容は何なのか。

小林委員長 区独自の特色ある施策として何をどのように進めて行くのか。防災の広報と宮前区版防災インストラクターの育成とを絡めて進めていくのが良いのではないかと。様々な会合の場で資料を使って、防災活動の啓発を行っていく。クロスロードゲームも活用し、これまでとは違ったやり方で展開していけば良いのではないかと。

松本委員 防災の資料は持っているが、ちゃんと見たことがないのが現状だ。ひとり一人に訴えていくことが必要だと思う。

渡辺部会長 限られた紙面に全て盛り込むのは無理であり、ある程度的を絞っていくことが重要だ。家庭内の取り決めや備品について家族で話し合いながら記入して貼っておけるような形が良いと思う。

永野委員 自助と共助がごっちゃになっていては困る。まず震災発生直後に自分の命を守るために何をしておくべきか、何をすべきかということに絞る。そうすると、建物や家具の下敷きになることをどうやって防ぐかということになる。

小林委員長 家具が倒れたり、崩れた様子を具体的に映像で見せ、体験談なども交えるような資料があれば、訴える力もあると思います。

渡辺部会長 まず講座で使う資料と、日常生活の中で目にふれるような資料の二つだと思う。

小林委員長 実例を交えたインパクトのあるものにしたい。

長谷川委員 「地震だ。頭を守れ、あなたはどうしますか？」というような自分で考えてもらえるようなものが良い。自分で意識を持ってもらってやってもらえるような物が良いだろう。

小林委員長 出前講座に合わせて資料を渡すとより生きると思います。ただ渡すのではゴミになってしまうことも多いだろう。

転入者向けの「宮前の暮らし方講座」のようなオリエンテーションの実施

事務局 実現性が厳しいのではないかと。転入者は必ず一度は転入届けに区役所に来るが、別途オリエンテーションの呼びかけに応じるかどうか疑問である。やはり集まっている所に出向く出前方式が良いだろう。スペースや機材の問題もあるが、区役所手続きの待合中に映像等を見てもらう方法も考えられる。

近隣避難場所を周知するための電柱等への表示

事務局 災害発生時は基本的にまず近くの学校に避難する。このことは十分区民に浸透していると考えている。緊急時にはそれがどの学校かはあまり重要でない。転入してきたばかりで学校がどこにあるのかもわからない方に対しては何らかの案内が必要かもしれない。

長谷川委員 電柱に貼る案内は、矢印など極簡単なものしかできないだろう。地図的なものは難しい。

福本委員 電柱の番地表示の付近に、「この地域の避難所は 小学校」という表示だけでも良い。

事務局 どこの学校に行くかというのは大きな問題ではなく、表示することによって、あまり固く考えられてしまっても困る。

渡辺部会長 火災が発生し、風下に避難所があるというケースもありうる。災害時はその場での判断が重要になる。

福本委員 私の地域などは学校が3校も近くにあるので、どこに行ったらいいのか混乱しそうだ。

渡辺部会長 行政として「避難所はどこでも良い」と公に言うことは可能なのでしょうか？それともやはり学区や自治会単位で決められているのでしょうか？

事務局 防災マップでは便宜上町会で避難所を区切っているが、何か事情があったり、外出先だった場合は、まずは一番近くや、避難しやすい所に行っていただいて良い。五所塚1丁目の方から、地域の避難所は多摩区長尾小学校になっているが、足の悪いので登り坂がきつく、平中学校の方が避難しやすいという話もあった。例えばこういうケースなら全く問題無い。

高等学校（川崎北高）だけは、県の警察や自衛隊の拠点になることが市の防災計画で位置づけられ

ている。しかし、住民が避難してきた場合は追い返すことはせず、ある程度のスペースは確保することになっている。

渡辺部会長 神木本町は、目の前に多摩区の長尾小学校があるのに、向ヶ丘中学校が避難所になっていて、山を降りて登らなければなりません。実際の災害の時は流動的に考えていただきたいと思います。

防災出前講座の拡充

事務局 市の防災インストラクターを活用した出前講座は、現在既に月6回ほど開催されており、今後宮前区だけで定期的な開催を行うのは難しいとのことでした。11月13日に企画されている出前講座は、対象が幼稚園保護者というのは初めてということでもなんとか実現しました。今後はやはり区で人材を育成するか、NPO等への委託などで講座を展開していく必要がある。

松本委員 幼稚園保護者会での防災講座では、自分の子どもを守るのはまず自分ということを実践的に訴えれば、皆さん素直に耳を傾け、考えてくださると思う。少しずつでも浸透させていきたい。クロスロードゲームの実施も考えており、保護者の中に震災体験者もいらっしゃるのので、その方の話を聞こうという話も出ている。

幼稚園未満の子どもを持つ親が対象者からまだ抜けている。子育て支援センターや子育てグループが集まっている場所での開催なども必要だ。

長谷川委員 身体障害者や高齢者の施設も良いと思います。

小林委員長 どんな施設や場所でも良いから人が集まる場所で講座を展開していくのが基本だ。あらゆる会合に出て行く。参与の先生方の報告会などでも時間をいただいて開催してはどうか。

事務局 バランスやコーディネートは区の方で積極的にやっていきたいと思います。

福本委員 老人ホームや障害者施設などでの防災や避難のマニュアルは作られているのでしょうか？

事務局 消防法により、防火管理者をおくこと、年数会の避難訓練の実施とその報告が義務付けられている。実際にどのくらいの質で行われているかは問題になるかもしれないが、規定なので、各施設で対応しているはずである。特に集客施設に対してはきちんと規定がある。

福本委員 昨日新しいタイプの起震車に乗ったが、自分の身体のコントロールが全く効かず、物も飛んできて、これまでの体験や、想像を超えた怖さを実感することができました。

事務局 出前講座では、資料を渡すだけでなく、人が人に伝えることを重視する必要がありそうだ。実際によくできている資料があるので、これをよく読んでもらえるようなしくみが必要なのではないかと。あえて、独自の新しい資料をつくる必要性はないのではないかと。

福本委員 既存の資料は充分皆にアピールできるものだと思う。

渡辺部会長 私の地域では、運動会の昼休みにいつも避難訓練のようなものをやっている。場を利用するのが一番手っ取り早いと思う。

宮前区版防災インストラクターの育成

小林委員長 人材はまず公募したい。区民会議委員は特に事情が無い限り、なっていただきたいと考えている。市の防災インストラクターは取得に相当の勉強と時間がかかるようだが、宮前区版インストラクターは、資料にそった状況等が説明ができればよいと思う。100人くらいの単位で養成したい。

事務局 防災学や専門的なことを教えるのではなく、「防災ハンドブック持っていますか？」「こんなことが書いてありますよ」「こんなことが大事ですよ」「小中学校が避難所になってますよ」というような話が、普段着でできるような方を増やしていきたいと考えている。

永野委員 自主防災組織役員は町会役員兼任や、高齢、お忙しい方が多い。もっと災害時に実際に動ける方々になっていただく必要があると思う。

例えば青少年指導員が今区内に 83 人いるが、同レベル、100 人前後の人材は確保したい。

長谷川委員 いろいろな施設にも呼びかけたい。100 人くらいはすぐ確保できるのではないかな。

小林委員長 難しく考えずに気軽にインストラクターになってもらえるような形が良い。その中から、クロスロードの進行なども上手になる人が少ずつ出てもらえれば嬉しい。

事務局 なっていただいたのに、年 1・2 回しか出番がないというようなことが無いようにしたい。活躍の場も合わせて確保していく必要がある。

松本委員 幼稚園保護者には転入してきた方も多く、本人が震災体験者だったり、家族が震災体験者という方が結構いらっしゃる。そういう方が担い手として出てくることも期待している。

永野委員 あくまで区が作っている資料や取組み、防災意識を広める役割と考えれば、そんなに大変ではないと思う。防災の広報的役割から出発すれば良い。

渡辺部会長 目的は防災意識の向上だ。それさえできれば足がかりとしては充分だろう。

事務局 説明はすぐできても、質疑応答まではなかなか難しいだろう。広報マンとしての役割と、質疑応答やクロスロードゲームの進行などまでこなす役割と 2 段階で考えてもよいのではないかな。

永野委員 現在 2 名の市の防災インストラクターも、それはそれで増やしていきたいです。

課題解決に向け取組中（他組織等）

町内会入会案内の作成・配布

事務局 町内会入会案内の促進については、担当課でお知らせを出すなどの形が検討されている。

避難所運営マニュアルの作成・配布

事務局 雛形を元に各避難所（学校）でとりまとめの作業が進められている最中だ。

福本委員 私の地域では月 1 回会合を開いて話し合っている。要員の確保に苦労している。

長谷川委員 提出期限が 11 月 19 日になっている。

永野委員 情報掲示板は避難所運営の上で非常に役立つが、避難所運営計画の中から落ちているのではないかな。

事務局 避難所運営マニュアルには情報掲示板の記述がある。

事務局 来年度に各避難所の立ち上げ訓練をしたい。平小学校で今年モデル的に実施し、ビデオ等を撮影してサンプルの作成に取り組んでいる。

小林委員長 避難所運営会議はどのくらいの頻度で会合を持っているのか？

事務局 役員回が年 4、5 回。その他全体会議として、避難所マニュアルの検討会や研修会のような会合を開催している。あとは各団体での自主的な会合になる。

渡辺部会長 リーダー研修では毎年クロスロードをやっていると聞いた。

福本委員 研修内容が大都市という環境が全て前提になっているように感じる。野川などでは宮前独自の内容ができないかとも思う。

明日のコミュニティ部会で小学校区単位での新しい地域コミュニティの形を検討

事務局 福本委員の団地の事例などを広げて生きたい。6 団地協議会などの場での講義のお願いなどを検討している。

その他

小規模組織（隣組単位）での安否確認、避難訓練の試み

小林委員長 中原区で町会が隣組の様な形で安否確認に取り組んでいると新聞記事が出ていた。参考になるのではないか。（資料として記事配布）

長谷川委員 横浜市緑区で全戸配布の資料ができたと聞いた。内容を知りたい。
隣組単位での訓練等について、次回資料提供することとした。

次回日程

11月1日（木）19：00～